1. 専門医制度の理念と専門医の使命

1)麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで国民の健康・福祉の増進に貢献する。

2)麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。

麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。本専門研修プログラムの概要と特長を以下に述べる。

1） 豊富で充実した関連研修病院群

順天堂大学医学部附属静岡病院を責任基幹施設とし、専門研修連携施設として順天堂大学医学部附属順天堂医院、順天堂大学医学部附属浦安病院等を含め、これらの施設において、整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムに基づく教育とトレーニングを提供し、専攻医が十分な知識と技術、そして判断力を備えた麻酔科専門医となるよう育成する。

2） 全診療科における十分な手術症例数とさらなる拡張性

本プログラムの手術麻酔に関する臨床トレーニングにおける特徴は、心臓血管外科、小児外科、産科、脳神経外科、呼吸器外科などの専門医取得にあたって必要な必須症例を十分に経験できるだけでなく、麻酔科全般におけるトレーニングを広く受けられることである。心臓血管外科、小児外科、脳神経外科、呼吸器外科などの症例数は全国の大学附属病院の中でもいずれもトップクラスにあり、ロボット支援下手術、経カテーテル的大動脈弁植え込み術など先進的な医療を多く行っている。 順天堂大学附属病院群における麻酔科管理症例は年間 2 万件を超えており、麻酔科学および全般的な麻酔管理を学ぶ条件が整っている。2023 年度における順天堂静岡病院の手術症例数は 9000 件を超えている。静岡病院では、専門研修

病院として、小児病院などを有している。また、静岡県専門研修医プログラムに対応する病院群として、静岡医療センター、静岡県立がんセンター、静岡済生会総合病院、伊東市民病院とプロフラム連携をしている。

3） Scientific mind をもった麻酔科専門医の養成

本プログラムでは scientific mind をもった麻酔科専門医の養成も目指している。生涯教育のためには、論文や教科書を読みこなし正しく評価するための科学的な視点が必要である。豊富な臨床例を基にした臨床論文のほか、基礎研究室における基礎研究、それらの橋渡しとなる translational research のトレーニングも充実している。麻酔科専門医となるための臨床的なトレーニングに加え、医学博士の学位を取得するためのプログラムも備えており、両者を同時に取得することも可能とするようなシステムとなっている。順天堂大学の基礎医学教室だけでなく、国内留学として他大学や他県の研究所で基礎研究の指導を受けることができる。論文はインパクトファクターの高い国際誌にも掲載されている。

4） 地域医療への貢献

順天堂静岡病院は東海地区における地域医療を担っている。

5） 国際的視野をもった麻酔科専門医の養成、ECFMG 取得大学院コースの設置

本プログラムでは国際的な視野を得るための機会も豊富にある。また、大学院に進学し、しかも法人からの給与を得ながら USMLE、 ECFMG に合格・資格取得する コースも準備されている。海外における学会発表のほか、希望者は研修終了後に 海外留学も可能である。大学院 ECFMG 取得コースの場合には、在学中に半年程度 の短期留学も認められている。

6） 法人の麻酔科医の重要性についての理解と女性麻酔科医が働きやすい環境

麻酔科医の仕事の重要性とハードさについては法人も理解しており、さまざまな優遇処置もとられている。女性麻酔科医ばかりでなく、産休、育休、当直など夜間勤務の免除・軽減が必要な麻酔科医の勤務に柔軟に対応し、一時期非常勤医としての勤務など産休・育休後の復帰が容易となるような勤務体制もとっている。

7)個人の求めるキャリアパスに応じた対応

以上をまとめると、scientific mind をもった麻酔科専門医となるだけでなく、 さらにペインクリニックや集中治療などのサブスペシャリティの専門医資格を得たり、学位を取得したり、海外留学をしたりするなど、各人の求めるキャリアパスに応じた教育やトレーニングを提供することが本プログラムの大きな特徴である。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに記載した。

3. 専門研修プログラムの運営方針

1）責任基幹施設である本施設における研修は 1~4 年とし、専門研修連携施設 A および B における研修は合計で 1~3 年とする。

2）目標症例数はローテーションする診療科の麻酔(長時間手術 1~2 例のものから、短時間

手術 4~6 例/日)や、ペインクリニックや集中治療のローテーション期間にも影響されるが、順天堂大学医学部附属静岡病院においては年間 300 ~400 例とする。

3) 麻酔科専門医取得に必要な症例数は本施設ですべて達成可能である。個々の麻酔法や麻酔に対する考え方などは施設や外科系診療科の方針により異なる場合がある。必須症例を満たすだけでなく、幅広い麻酔科研修を受けられるよう専門研連携施設とのローテーションを行う。順天堂大学附属病院群における麻酔科管理症例は年間 2 万件を超えており、十分な麻酔経験を積むことができきる。(順天堂静岡病院では年間約 9000 件の手術を実施している。)
4) 順天堂静岡病院におけるローテーションは 1 年単位を基本とするが、個人の希望や施設の事情によっては 6 か月のローテーションも受け入れる。専門研修連携施設 B における研修は原則として 6 か月を基本単位とし、個人の希望および研修内容により 6 か月ごとの延長を行う。
5) 本プログラムに学ぶすべての専攻生が、経験目標として提示されている特殊麻酔症例数のトレーニングを受けられるようにローテーションを構築する。個人のトレーニングの実施状況や目標到達状況に応じた教育とトレーニングが受けられるよう、順天堂大学静岡病院および専門研修連携施設 A・B が強い連携を持っ てローテーショプログラムを定期的に検討し、改善に取り組むとともに、専攻生の希望と到達目標の達成度に合ったローテーションプログラムを組む。
6) 臨床・基礎研究を行い、国内・国際学会での発表や、論文作成ができるように指導する。
7) ペインクリニック、心臓血管麻酔、集中治療などのサブスペシャリティのトレーニングを提供する。希望者にはそれぞれの領域における専門医取得ができるようにトレーニングを実施する。
8) 研修期間終了後は、他の領域を含む専門医資格や学位に応じて大学・病院 スタッフとして採用する道が開けている。

9) 順天堂静岡病院ではさらに、国立成育医療研究センター、埼玉県立小児医療センター、静岡こども病院の小児専門施設との連携を行っている。

■研修医ローテーション例
以下に研修ローテーションの例を提示する。個人の事情・希望に応じて対応するため、バリエーションは多い。将来の専門分野を念頭に置いたプログラムを構成する。1 年のローテーションを基本単位として表に示すが、前述のように 6 か月を単位とした研修も認める。学位取得のための大学院入学や、海外留学などを行う場合には、研修期間は入学時や留学期間などにより変更する。また、順天堂医院や所属する専門研修連携施設で研修中でも、プログラム内の専門関連研修施設等で週 1 日勤務することも可能である。

1)施設別

1 年目 2 年目 3 年目 4 年目

A 順天堂大学静岡病院 順天堂医院 専門研修連携施設 順天堂大学静岡病院

B 順天堂大学静岡病院 順天堂大学浦安病院 専門研修連携施設 順天堂大学静岡病院

C 順天堂大学静岡病院 順天堂医院 専門研修連携施設 順天堂大学静岡病院

D 順天堂大学静岡病院 専門研修連携施設 順天堂大学浦安病院 順天堂大学静岡病院

2)順天堂大学医学部附属静岡病院における月別ローテーション例

基本的には後期研修 1 年目から 1 年を基本としてローテーションを構成する。

院外研修では順天堂医院の場合には、心臓麻酔、小児麻酔、産科麻酔、脳神経外科麻酔、ペインクリニック、集中治療などの重点領域のトレーニングを集中的に実施する。以下に順天堂医院で 2 年間研修する場合のローテーション例を示す。 ローテーションは原則 1~2 ヵ月単位とする。2 ヵ月のローテーションの場合は、 連続ではなく 1 ヵ月ずつとする場合もある。1 ヵ月目は比較的簡単な手術、軽症例とし、2 ヵ月目にはより複雑な手術や重症例を担当するようにする。当直時には、全ての診療科の緊急手術に対応できることを目標としてトレーニングを行う。

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数
本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数: 53,587 症例
本研修プログラム全体における総指導医数: 101 人

1 専門研修基幹施設 1)順天堂大学医学部附属静岡病院（以下静岡病院）
研修実施責任者：尾前　毅
専門研修指導医：尾前　毅、洪　景都、櫻庭園子、山﨑　翔、八子　一、上田恩来
麻酔科認定病院番号：第 422 号
特徴：静岡県東部で三次救急を担う救命救急センター、総合周産期母子医療センター、新生児センター、脳卒中センター、がん治療センターを持つ地域の高度医療を担う中核病院である。さらに、静岡県東部ドクターヘリ運航拠点病院であり、周産期救急医療を含む多彩な緊急手術を特徴としている。
麻酔科管理症例数 4638 症例
小児(6 歳未満)の麻酔 142 症例
帝王切開術の麻酔　293 症例
心臓血管手術の麻酔 315 症例
胸部外科手術の麻酔 173 症例
脳神経外科手術の麻酔 258 症例

2 専門研修連携施設
1） 順天堂大学医学部附属順天堂医院(以下，順天堂医院)
研修実施責任者：川越いづみ
川越いづみ（呼吸器外科麻酔・区域麻酔)、石川晴士（胸部外科麻酔・術前外来)、赤澤年正（麻酔全般・心臓血管外科麻酔)、長島道生（集中治療)、林田眞和（心臓血管外科麻酔)、西村欣也（小児麻酔)、井関雅子（ペインクリニック、緩和ケア)、三高千恵子（集中治療)、近江禎子（麻酔全般・産科麻酔)、竹内和世（麻酔全般・小児麻酔)、工藤　治（麻酔全般、岩田志保子（麻酔全般・心臓血管外科麻酔)、掛水真帆（麻酔全般・心臓血管外科麻酔)、尾堂公彦（麻酔全般・心臓血管外科麻酔)、河邉千佳（麻酔全般・小児麻酔)、福田征孝（麻酔全般)、安藤　望（麻酔全般)、藤野隆史（麻酔全般)、須賀芳文（産科麻酔)、門倉ゆみ子（産科麻酔)、千葉聡子（ペインクリニック)、原　厚子（ペインクリニック)、山田恵子（ペインクリニック)、濱岡早枝子（ペインクリニック)、太田　浄（ペインクリニック）
専門医：稲田美香子（麻酔全般)、林　愛（麻酔全般)、櫻谷初奈（麻酔全般)、山口　愛（麻酔全般)、草野有佳里（麻酔全般)、塚田里奈（麻酔全般)、伊東由圭（麻酔全般)、宇田川梨子（麻酔全般)、桃井千恵（麻酔全般)、岩佐　美（麻酔全般)、河内　順（麻酔全般)、箕浦真奈美（産科麻酔)、米本周平（麻酔全般)、吉武翔太郎（麻酔全般)、森　悠子　（麻酔全般)、多賀慶子（麻酔全般)、岸井　絢（麻酔全般)、金子綾香（麻酔全般)、結束さやか（麻

酔全般）
麻酔科認定病院番号 12
特徴：各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験でき、各サブスペシャリティーの指導陣も充実している。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、産科麻酔の長期・短期のローテーションも可能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している

2）順天堂大学医学部附属浦安病院
研修実施責任者：髙橋伸二
専門研修指導医：高橋　伸二（麻酔、集中治療、ペインクリニック）、神山　洋一郎（麻酔、集中治療、ペインクリニック）、大和田　哲郎（麻酔、心臓麻酔）、保利　直助（麻酔）、平本　芳行（麻酔、集中治療、救急医学）、小松　茜（麻酔）、須賀　芳文（麻酔、産科麻酔）
専門医：竹田くるみ（麻酔）
麻酔科認定病院番号：342
特徴：手術麻酔全般のほか、ペインクリニック、無痛分娩、をローテーションなく研修可能である。特に、産科、小児外科の症例が多い。初期研修医レジデントと共にレジデントレクチャー、シミュレーショントレーニングがうけられる。

3）東京都立多摩総合医療センター（以下，多摩総合医療センター）
研修実施責任者：山本　博俊
専門研修指導医：山本　博俊（麻酔，心臓血管麻酔）、渡邉　弘道（麻酔，神経ブロック）、臼田　岩男（麻酔、心臓血管麻酔）、阿部　修治（麻酔，ペインクリニック）、田辺　瀬良美（麻酔，産科麻酔）、北條　貴也（麻酔）、平林　清子（麻酔）、本田　亜季（麻酔）、稲吉　梨絵（麻酔）、滝島　千尋（麻酔，ペインクリニック）、小松　郁子（麻酔，神経ブロック，心臓血管麻酔）、神保　一平（麻酔）、稲垣　翔子（麻酔、心臓血管麻酔）、江村　彩（麻酔）、土屋　愛依（麻酔）
専門医：原　有梨香（麻酔）、華岡　万貴（麻酔，心臓血管麻酔）、湯本　由志（麻酔）、奥富　由貴（麻酔）、重松　純子（麻酔）、堀場　容子（麻酔）
認定施設番号：89
特徴：多摩地域における唯一の総合的な医療機能を持つ都立病院として、11 の重点医療を定めて高度専門医療を実施している。その中でも救急医療、がん医療、周産期医療を三本柱として重視している。多数の外科系診療科がまんべんなくそろっており、症例は豊富でバラエティに富んでいる。緊急手術特に産科の緊急手術が多いのが特徴である。

4）伊東市民病院
研修実施責任者：富樫　秀彰

専門研修指導医：富樫　秀彰（麻酔、ペインクリニック）、
麻酔科認定病院番号：991
特徴：伊東地区唯一の 2 次救急医療機関として、様々な疾患を受け入れている。また静岡県の地域で研修をしながらも、週末は都市部で新しい知識に触れることができる。

5）順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター（以下, 高齢者医療センター）
研修実施責任者：山口敬介（麻酔一般、ペインクリニック）
専門研修指導医：齋藤貴幸（麻酔一般）、飯田史絵（麻酔一般、ペインクリニック）、森悠（麻酔一般）
認定病院番号:1057
特徴：認知症を初め、合併症を有している高齢者および超高齢者（85 歳以上）の手術症例が多いことが特徴です。高齢患者に対するきめ細かい周術期管理を経験することができます。また、フレイル・サルコペニアが術後認知機能障害に及ぼす影響に関し、臨床研究を行っています。ペインクリニック外来では、慢性疼痛治療に従事することができます。

6）埼玉県立小児医療センター
研修実施責任者：蔵谷紀文
専門研修指導医：蔵谷紀文（麻酔・小児麻酔）、濱屋和泉（麻酔・小児麻酔）、古賀洋安（麻酔・小児麻酔）、伊佐田哲朗（麻酔・小児麻酔）、小嶋大樹（麻酔・小児麻酔）、大橋　智（麻酔・小児麻酔）、駒崎真矢（麻酔・小児麻酔）、高田美沙（麻酔・小児麻酔）、坂口雄一（麻酔・小児麻酔）、藤本由貴（麻酔・小児麻酔）、鴻池利枝（麻酔・小児麻酔）
専門医：影山翔一（麻酔・小児麻酔）
特徴：研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能です(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。さいたま新都心駅と北与野駅からペデストリアンデッキで直接アクセス可能です。

7）独立行政法人国立病院機構　静岡医療センター
研修実施責任者：小澤　章子
専門研修指導医：小澤　章子（麻酔,集中治療）、今津　康弘（麻酔,集中治療）
専門医：波里　純子（麻酔,集中治療）
認定施設番号：第 866 号
特徴：当院は「循環器」,「がん医療」,「救急」及び「総合医療」を柱として地域の医療ニーズに応えている地域医療支援病院である。「地域循環器病センター」として静岡県東部の「循環器病」に関する中核病院に位置付けられており、心臓血管外科の症例も豊富で、虚血

性心疾患,血管疾患,循環器疾患の診療治療を経験できる。救急医療体制も充実しており、心臓血管外科は静岡県東部全域より救急を受け入れている。

8）静岡がんセンター
研修実施責任者：安藤　憲興（麻酔）
専門研修指導医：
安藤　憲興（麻酔）、玉井　直（麻酔）、籾山　幸紀（麻酔）、江間　義朗（麻酔）、籾山　幸紀（麻酔）、長崎　晶美（麻酔）、小石川　亜矢（麻酔）、山口　貴章（麻酔）、井出　利恵（麻酔）、山下　麻子（麻酔）
専門医：柳田　大輔（麻酔）、中島　祐人（麻酔）
麻酔科認定病院番号：972
特徴：当院はがん専門病院であり、症例の大部分は成人のがん手術です。手術支援ロボットダヴィンチ３台＋ヒノトリ１台がフル稼働性しており、大腸外科、泌尿器科、胃外科、婦人科、呼吸器外科、肝胆膵外科、食道外科、頭頚部外科で多数のロボット手術症例があります。また特定症例では、呼吸器外科、脳神経外科症例が多数あります。各領域での標準的な麻酔管理の習得を目標としています。なお、救急症例は入院および通院中の患者症例のみです。

9）静岡県立こども病院（以下，こども病院）
研修実施責任者：渡邊　朝香
専門研修指導医：渡邊　朝香（小児麻酔、小児心臓麻酔）、石田　千鶴（小児麻酔）、小幡　向平(小児麻酔、小児心臓麻酔)、坂下　真依(小児麻酔)
認定病院番号：183
特徴：地域における小児医療の中心施設であり、幅広い症例を経験できる。
術前の情報収集、患児の不安を取り除く配慮など、細やかな考え方を習得できる。 また、術中・術後鎮痛のため、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロックを行っており、小児に対する Multimodal analgesia を積極的に行っている。さらに、新生児手術や、外科の気道系の疾患も多く、小児麻酔のエッセンスを習得できる。心臓血管麻酔学会認定施設であり、心臓血管外科手術も多数経験できる。当院では、先天性心疾患患者を多くフォローしており、成人先天性心疾患患者の麻酔に遭遇する機会も多く、麻酔管理を経験することで、より理解を深めることが可能である。

10）静岡済生会総合病院
研修実施責任者：小柴　真一
専門研修指導医：小柴　真一（麻酔）、飯塚　浩基（麻酔、ペインクリニック）、松永　雄太（麻酔）、野中　輝美（麻酔）、朴　隆一（麻酔）
認定病院番号：293

特徴：心臓外科・胸部外科・外科・整形外科・産婦人科・脳外科・形成外科・耳鼻科などの多彩な手術症例の麻酔を研修することができます。また希望があれば救急外来での研修も可能です。当院の麻酔科医はすごく優しいです、一緒に頑張りましょう。

11）東京都立墨東病院（以下 都立墨東病院）
研修プログラム統括責任者：　後藤尚也
専門研修指導医： 後藤 尚也（麻酔)、永迫 奈巳（麻酔)、河村 尚人麻酔 心臓血管麻酔 ペインクリニック)、平野 敦子（麻酔 産科麻酔 ペインクリニック)、吉村 敦（麻酔 ペインクリニック)、櫻井 ともえ（麻酔 小児麻酔)、菊池 暢子（麻酔 ペインクリニック)、桐野 若葉（麻酔）
専門医：近藤 日向子（麻酔)、山谷 直大（麻酔)、廣松　大樹（麻酔）

麻酔科認定病院番号　26
特徴：東京都立墨東病院は東京都東部地域（人口約 180 万人）の医療における最後の砦として存在する急性期を中心とした基幹型臨床研修病院です。都内最大規模の高度救命救急センター（都内 4 施設、当院は都内では唯一の非医育機関での認定)、都内最多の母体搬送受入件数を誇る総合周産期母子医療センター（当院の該当するスーパー総合周産期センターは都内 6 施設のみ）を有します。また、東京都脳卒中急性期医療機関、東京都 CCU ネットワーク加盟施設、地域がん診療連携拠点病院でもあり、経験できる症例は多岐にわたります。
麻酔科管理手術症例は年間約 4700 件、緊急手術症例が多く救急症例、重症症例の麻酔管理を日常的に経験出来ます。また、東京都東部ブロックの周産期基幹病院であり、産科麻酔に精通した指導医が常勤し、重症産科救急症例、無痛分娩麻酔を恵まれた環境で研修できます。
先駆的な臨床的取り組みにも積極的に力を入れております。例えば、単孔式胸腔鏡下手術(Uniportal VATS)を日本でいち早く導入した呼吸器外科と連携し、術後早期回復プログラム(ERAS)を導入した 1 泊 2 日 VATS 入院に取り組んでおります。また、呼吸器外科と共同で低侵襲手術研修を目的とした海外研修も希望者は参加できます。
心臓血管麻酔、ペインクリニック、緩和医療の認定研修施設でもあります。院内他診療科とも親密に連携しており、希望があれば集中治療科、救命救急センターの研修も可能です。これらの幅広いサブスペシャリティ専門医資格の取得を視野に入れた研修が行えます。

12）順天堂大学医学部附属練馬病院
研修実施責任者：菊地利浩（麻酔科）
専門研修指導医：菊地利浩（麻酔科学一般)、田邉豊（ペインクリニック)、天野功二郎（麻酔科学一般・ペインクリニック・産科麻酔)、権藤栄蔵（麻酔科学一般・ペインクリニック・

産科麻酔）
専門医：秋本真梨子（麻酔科学一般・ペインクリニック・産科麻酔)、西岡崇（麻酔科学一般・心臓麻酔・産科麻酔)、鈴木香純（麻酔科学一般・産科麻酔）
認定病院番号：1215
特徴：大学病院でありながら地域における医療の中心施設。外科一般はもとより、心臓外科や小児外科手術も行っており、3 次救急症例も含めて幅広い症例に対応している。またペインクリニック外来を開設しており、緩和医療や無痛分娩の対応など、麻酔科医の診療活動は多岐にわたっている。

13）沼津市立病院
研修実施責任者：稲村実穂子
専門研修指導医：稲村実穂子（麻酔一般)、影山佳世（麻酔一般）
専門医：竹中淳悟（麻酔一般)、竹下朋納（麻酔一般）
認定病院番号　054
特徴：静岡県東部地域の中核病院として、ドクターヘリポート・救急ワークステーションを持つ三次救命救急センターを運営し、専門医療および救急診療に携わっている。心臓血管外科・小児外科・産科の特殊麻酔経験症例をはじめ幅広い手術症例を十分経験できる施設となっている。

14）富士宮市立病院
研修実施責任者：古川　力三
専門研修指導医：古川　力三（麻酔一般、産科麻酔）
認定病院番号　1669
特徴：地域の中核病院として 24 時間 365 日の手術「安全かつ質の高い周術期ケア」を提供している。症例数は年間 2500 件（麻酔管理症例：1400 件)、呼吸器・上下消化管・肝胆膵などの外科の他、整形外科、耳鼻科、産婦人科などを中心に小児から高齢患者、ハイリスク患者まで様々な症例を経験することができる。特に、周術期に特化した「ハイリスクカンファレンス」、「術後疼痛管理チーム」といった多職種連携医療を学ぶことが可能である。

5. 募集定員 3 名(予定)
6. 専攻医の採用と問い合わせ先
1 採用方法
専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限まで志望の研修プログラムに応募する。
2 問い合わせ先
本研修プログラムへの問い合わせ先は、順天堂大学医学部附属静岡病院 麻酔科専門研修プログラム website、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも 能である。施設の見学も随時受け付けている。
順天堂大学医学部附属浦安病院麻酔科 教授 尾前 毅
住所:静岡県伊豆の国市長岡 1129
TEL 055-948-3111 (代表)
E-mail t-omae@juntendo.ac.jp
Website https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/department/esthesia/
7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について
1 専門研修で得られる成果(アウトカム)
麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4 年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の 4 つの資質を修得した医師となる。
1)十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2)刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
3)医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
4)常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心
麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

2 麻酔科専門研修の到達目標
国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

3 麻酔科専門研修の経験目標
1) 専門研修方法 別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた 1)臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3)自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技

能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス 専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知
識・技能・態度の到達目標を達成する。Generalist であることに加え、自分の 得意とする領域をもち、そこでの深い知識と高い技量や判断力をもち、学会認定 資格を得られるようにする。生涯教育ができる基礎的な知識や技量を身に着けるようにする。
■専門研修 1 年目 患者の状態や手術に応じた術前評価、手術麻酔に必要な基本的な手技と、解剖学、薬理学、生理学、病態生理学などの専門知識を修得することを目的とする。気管挿管、声門上器具の挿入、気管支ファイバーによる挿管、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、動脈カテーテル挿入、神経ブロックなどの基本的手技を習得する。術前から術後に至るまでの周術期管理の流れを理解する。比較的侵襲の小さな手術を行う診療科中心に、1~2 か月のローテーションを行う。対象とする患者も、比較的軽症の患者とする。
■専門研修 2 年目
1 年目に習得した技能の発展、知識をより深い実践的なものとする。1 年目に修得した技能を磨き、知識をさらに深いものとする。1 年目と同様に 1~2 か月ごとの診療科別ローテーションを行う。術後集中治療管理が必要になるような比較的侵襲の大きな手術を行う診療科のローテーションが中心となる。侵襲的な手技や、肺動脈カテーテル挿入や経食道心エコー法などより高度の技能を要する手技を習得し、認定資格を得るようにするようにする。手術麻酔のほか、1~2 か月単位でペインクリニックや集中治療のローテーションを行い、総合的な力を習得する。
■専門研修 3 年目
2 年目までは総合的な研修を実施するが、3 年目は専攻医の興味や、将来への
希望 を活かして、心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開 手術、新生児を含む小児手術や、集中治療などのトレーニングを受ける。希望に 応じてペインクリニックや緩和ケアなどのトレーニングも 3~6 か月の単位で行 。将来のサブスペシャリティにつながるローテーションとする。学会発表などができるようにする。研究志向がある場合は、大学院における研究なども実施する。留学志望がある専攻医にも対応したトレーニングを行う。
■専門研修 4 年目
これまでに受けたトレーニングをより発展したものとし、心臓血管外科麻酔や産科麻酔、集中治療、ペインクリニックなどのトレーニングを 6~12 か月行う。将来、 generalist を目指す場合には、順天堂医院やプログラム内の病院で、多くの診療科の麻酔に関してトレーニングを受け、トラブルシューティングを含め、自分で実施する実力をつける。トレーニングを受ける一方、指導的な役割も一部果たすフェローとしてトレーニングを受ける。教育力をつけるとともに、将来の専門医として自立し、生涯教育ができるようにする。研究遂行能力や

論文作成能力を習得する。

■専門研修の評価(自己評価と他者評価)

1 形成的評価

研修実績記録 専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。

専門研修指導医による評価とフィードバック

研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

2 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修 4 年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい 1 専門知識、2 専門技能、3 医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。メディカルスタッフによる評価も行う。

9. 専門研修プログラムの修了要件 各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

10. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価 専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

11. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

1 専門研修の休止 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる。

妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含 まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を越えていなければ、それまでの研

修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める。
2 専門研修の中断
専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。
3 研修プログラムの移動
専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医の到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。
12. 地域医療への対応
地域医療の中核病院としての順天堂静岡病院だけでなく、医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、地域の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。
13. プログラムのの変更
研修医のニーズに応じてプログラム連携施設を追加することがある。